

同志社大学「次世代研究者」プロフィール

2021年10月現在

基本情報					
フリガナ 氏名	オカモト 岡本	ナオミ 直美	生年	1988年	
氏名(英字)	OKAMOTO	Naomi	メールアドレス	nokamoto(a)mail.doshisha.ac.jp	
学歴	2007年4月 神戸市外国語大学外国語学部国際関係学科 入学 2011年3月 神戸市外国語大学外国語学部国際関係学科 卒業 2011年4月 神戸市外国語大学大学院外国語学研究科国際関係学専攻 博士課程(前期課程) 入学 2013年3月 神戸市外国語大学大学院外国語学研究科国際関係学専攻 博士課程(前期課程) 修了 2013年4月 神戸市外国語大学大学院外国語学研究科国際関係学専攻 博士課程(後期課程) 入学 2017年3月 神戸市外国語大学大学院外国語学研究科国際関係学専攻 博士課程(後期課程) 退学 2017年4月 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻 博士課程(後期課程) 入学 2021年3月 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻 博士課程(後期課程) 修了				
職歴	2017年4月-現在 沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員 2018年4月-現在 同志社大学<奄美-沖縄-琉球>研究センター 嘱託研究員(2021.4より兼任研究員) 2019年4月-20213月 日本学術振興会特別研究員(DC2) 2021年4月-現在 関西大学文学部非常勤講師 2021年4月-現在 同志社大学研究開発推進機構及びグローバル地域文化学部 特別任用助手(有期研究員)				
指導教員	富山 一郎 教授		取得学位	博士 (現代アジア研究)	専修外国語・読解可能な外国語 英語
研究活動					
研究分野	沖縄近現代史				
科研費分類による研究分野	社会学、地域研究				
研究テーマ	占領期沖縄の「島ぐるみ」闘争における抵抗主体の移動経験				
研究概要	<p>本研究では、占領期沖縄で展開した全沖縄的な反米軍基地闘争である「島ぐるみ」闘争(1956年)に注目する。そして、該当期の抵抗主体の移動経験を通して土地闘争の実態解明を目指す。「島ぐるみ」闘争を焦点化することで、この出来事を沖縄の復帰運動の前史として沖縄の自治や自己決定を議論してきた沖縄戦後史を住民の生活空間から捉え返す。</p> <p>具体的な研究対象地として、「島ぐるみ」闘争の源流である「伊江島土地闘争」(沖縄県伊江島)を取り上げる。当運動は<土着の農民による占領者への抵抗>という前提のもと住民自ら政治空間を構築した点が評価されてきた。本研究では、従来土着性を前提に論じられてきた伊江島土地闘争を抵抗主体の移動経験から再検討し、土地闘争の生成過程を解明する。</p>				

同志社大学「次世代研究者」プロフィール

研究業績	<p>論文(査読あり)</p> <p>「占領期沖縄における土地接収と生活補償をめぐる折衝過程—伊江島の陳情者の座り込みまで—」、岡本直美、『沖縄文化研究』、第45号、pp.319-371、2018年3月</p> <p>「1950年代の沖縄における軍用地接収と生活補償—伊江島の強制接収から「乞食」宣言まで—」、岡本直美、『文化／批評』、第9号、pp.39-60、2018年9月</p> <p>「沖縄県伊江島の反戦平和資料館—「生きる」を軸とした記憶の場の形成」、岡本直美、『MFE 多焦点的拡張』、創刊号、pp.95-118、2021年8月</p> <p>論文(査読なし)</p> <p>「資料紹介: 沖縄・阿波根昌鴻と一燈園との関わり—「一燈園香倉院資料」からみる関係の形成期—」、岡本直美、『神戸外大論叢』、第65巻第4号、pp.149-164、2015年3月</p> <p>「台所から聞こえる歴史—反戦平和を聞き取る場所—」、岡本直美、『RONDO 論堂』、第3巻、pp.166-181、2021年1月</p> <p>口頭発表(海外)</p> <p>“What happened in the kitchen? : The history of anti-war peace in Okinawa”, Naomi Okamoto, Gender and Power in Okinawa, University of California San Diego, San Diego, January 2020</p> <p>“Okinawa as a Site of Global Militarism and Demilitarization: A Transpacific Inquiry”, Ono Mitsuaki, Hiroko Matsuda, Wendy Matsumura, O Naomi Okamoto, Yuichiro Onishi, Association for Asian Studies, Zoom, March 2021</p> <p>口頭発表(国内)</p> <p>「沖縄の自-治と自問」、古波蔵契・○岡本直美、鄭信赫(カルチュラル・スタディーズ学会第15回大会(於早稲田大学))、2017年6月</p> <p>「戦後沖縄における反基地闘争と「学習」—伊江島土地闘争を中心に—」、岡本直美(同志社大学グローバル・スタディーズ学会第1回大会(於同志社大学))、2017年11月</p> <p>「アクティビズムとしての学習」、○岡本直美・マレイド・ハインズ(カルチュラル・スタディーズ学会第16回大会(於龍谷大学))、2018年6月</p> <p>「銃剣とブルドーザー」期の伊江島土地闘争」、岡本直美(国際日本学研究会第12回学術大会(於天理大学))、2018年10月</p> <p>「運動と反戦平和資料館—沖縄県伊江島「ヌチドウタカラの家」—」、岡本直美(同志社大学グローバル・スタディーズ学会第2回大会(於同志社大学))、2018年12月</p> <p>「移動・政治・言語—移動者の記憶／経験と文化継承のスタイル」、園田節子・濱田麻矢・岡本直美(日本移民学会第29回年次大会(於天理大学))、2019年6月</p> <p>「移動経験と反米軍基地闘争—米軍統治期沖縄における伊江島土地闘争の再検討—」、岡本直美(同志社大学グローバル・スタディーズ学会第3回大会(於同志社大学))、2019年12月</p> <p>「人びとの移動経験と沖縄の土地接収—「伊江島土地闘争」の再検討—」、岡本直美(第4回日本移民学会冬季研究大会(於名古屋大学))、2019年12月</p> <p>「米軍統治下沖縄における伊江島土地闘争の再検討—開拓地・移動経験の視点から—」、岡本直美、(カルチュラル・スタディーズ学会第19回学会(於Zoom))、2021年6月</p>	
	所属学会	日本移民学会、カルチュラルスタディーズ学会
	キャリア関連	
	志望進路	教員(大学)、研究員(大学、研究機関等)
	進路	
	自己PR	博士課程在学時より10年近く、沖縄で現地調査を行ってきました。フィールドワークで聞き取り調査や運動資料を収集すると同時に、琉球政府文書や米軍資料などの公文書も合わせて検討してきました。現在は他大学において「沖縄・琉球文化論」の授業を担当しています。
	取得資格等	

※メールアドレスの(a)は@を表しています